

プーチン氏が核脅迫

「併合地域」あらゆる手段で防衛

ロシアのプーチン大統領「住民投票」が武力を背景の復帰を要求。そのうえは9月30日、ウクライナ東部に強制されたもので無効だと4州の「編入」を議論の部・南部4州を一方的に併合する条約に調印するにあたり、約40分間演説し、4州の住民は「永遠にわれわれの市民だ」と宣言しました。また併合地域を含めロシアの領土を「あらゆる力と手段で防衛する」と述べ、事実上の核兵器による脅迫を行いました。これほど大規模な地域の武力併合は第2次世界大戦後初めてで、「紛争をもっとも危険な段階に引き上げた」（英紙フィナンシャル・タイムズ）との指摘が出ています。

プーチン氏は、4州の併合に「即時停戦と交渉」を要求。そのうえで4州の「編入」を議論の対象にしないと、ウクライナが「住民の意思表明を尊重」することが「平和への唯一の道だ」と一方的に通告しました。

プーチン氏は、4州の併合に「即時停戦と交渉」を要求。そのうえで4州の「編入」を議論の対象にしないと、ウクライナが「住民の意思表明を尊重」することが「平和への唯一の道だ」と一方的に通告しました。

プーチン氏は、4州の併合に「即時停戦と交渉」を要求。そのうえで4州の「編入」を議論の対象にしないと、ウクライナが「住民の意思表明を尊重」することが「平和への唯一の道だ」と一方的に通告しました。

プーチン氏は、4州の併合に「即時停戦と交渉」を要求。そのうえで4州の「編入」を議論の対象にしないと、ウクライナが「住民の意思表明を尊重」することが「平和への唯一の道だ」と一方的に通告しました。

関連⑤面

プーチン氏は、4州の併合に「即時停戦と交渉」を要求。そのうえで4州の「編入」を議論の対象にしないと、ウクライナが「住民の意思表明を尊重」することが「平和への唯一の道だ」と一方的に通告しました。